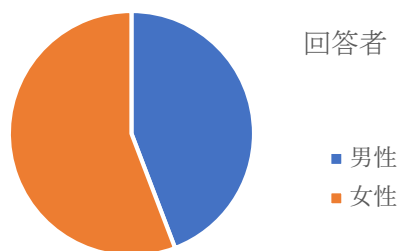


# 1 単純集計（回答者の属性）



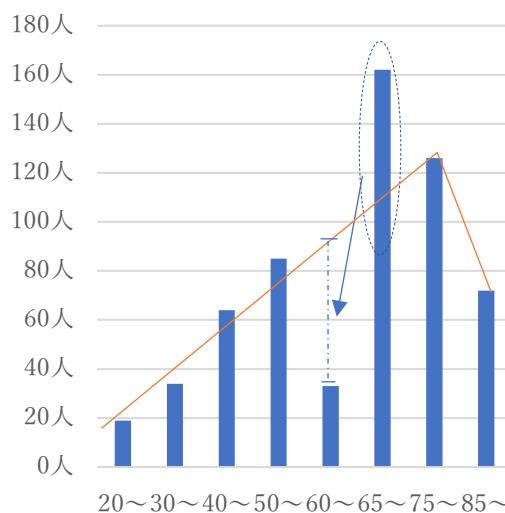
## (1) 性別

項目	男性	女性	合計
送付数	477 人	523 人	1,000 人
回答者数	263 人	332 人	595 人
回答率	55%	63%	60%

総務省の資料からも一般的な郵送でのアンケート結果の回答率が 25%から 30%程度といわれている中で、60%の回答率は極めて高い水準での回答を得たことになり、町民がこのテーマについて関心が高いことをうかがわせる結果になっています。

## (2) 年齢階層別

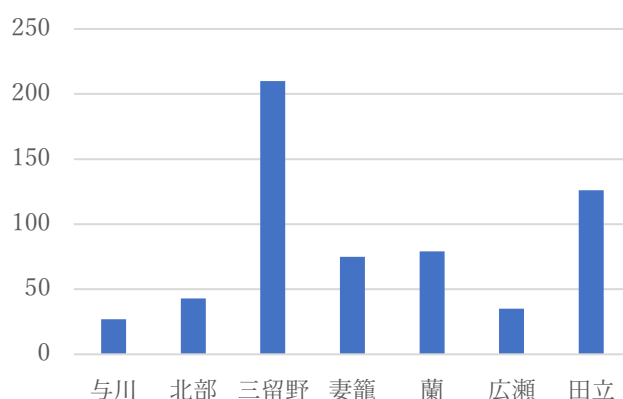
年齢階層	送付数	回答者数	回答率
20～29	59 人	19 人	32%
30～39	77 人	34 人	44%
40～49	122 人	64 人	52%
50～59	149 人	85 人	57%
60～64	65 人	33 人	51%
65～74	219 人	162 人	74%
75～84	197 人	126 人	64%
85～	112 人	72 人	64%
合計	1,000 人	595 人	60%



65歳で区切っているため、60歳から64歳の区分の数字は小さいですが、10歳毎では75歳をピークとした山形のグラフラインとなります。

## (3) 地区別

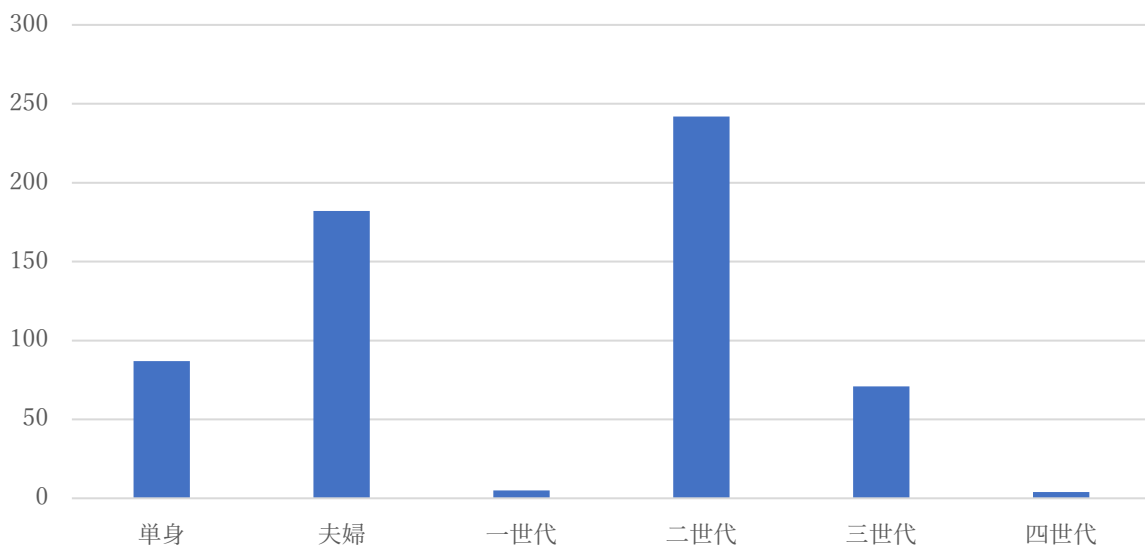
地区名	送付数	回答者数	回答割合
与川	45 人	27 人	60%
北部	80 人	43 人	54%
三留野	356 人	210 人	59%
妻籠	139 人	75 人	54%
蘭	124 人	79 人	64%
広瀬	53 人	35 人	66%
田立	203 人	126 人	62%
合計	1,000 人	595 人	60%



回答率が均衡しており、アンケート結果は地域毎の結果を同様に反映したものとなります。

#### (4) 世帯別

設問	合計	構成割合
単身	87人	15%
夫婦	182人	31%
一世代	5人	1%
二世代	242人	41%
三世代	71人	12%
四世代	4人	1%
回答無	4人	1%
合計	595人	100%



ここで区分した一世代は、兄弟姉妹で暮らしている世代を指します。また孫を含む四世代は国勢調査などでも通常三世代に包括しますが、ここではあえて四世代と分けし掲載しています。

総務省のデータでは三世代同居世帯は、平成12年度が26.5%で平成27年度では10%程度となって減り続けているという結果です。

令和2年の国勢調査では南木曾町の三世帯は8%でした。

今回の南木曾町の調査では12%、4世代を加えると13%が三世代の同居という全国平均より少し多い割合での回答結果となりました。

全国との比較では、県単位で最も高い山形県が33%程度、長野県で20%程度ですから、三世代同居率は比較的低い値となっています。

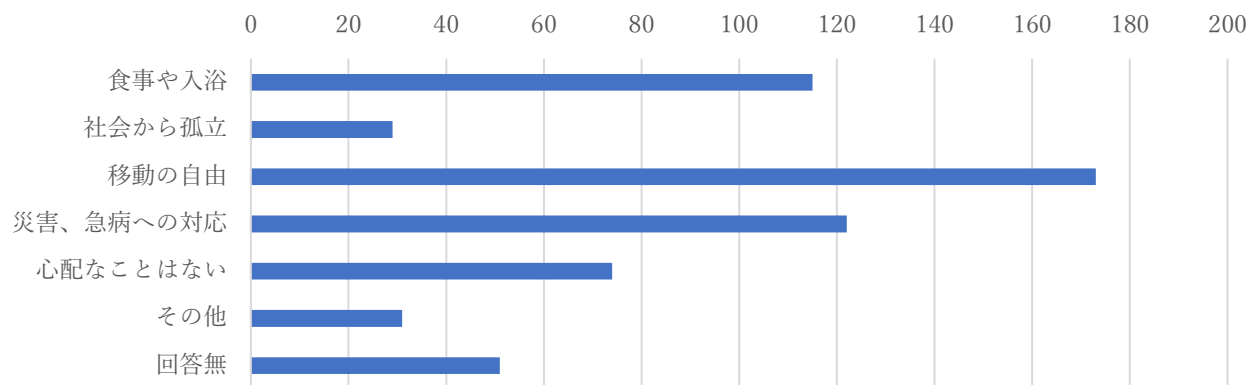
## 2 単純集計（調査結果）

※【】内に調査の仕方について【択一】【3つまで】とあるもの以外は、いくつでも選択可能か調査項目になります。

### 【心配・不安なこと、相談したいこと】

問1 あなたが普段（将来）生活をするうえで心配なこと、不安に感じていること、誰かに相談したいことにはどのようなことがありますか。【択一】 【回答者数 595人】

	設問	回答数	回答割合
1	身体の動きが悪くなって、 <u>ご飯を食べたりお風呂に入る</u> ことができなくなることが不安だ	115	19%
2	自分の役割や仕事ができなくなったりして、 <u>社会から孤立</u> してしまうのが不安だ	29	5%
3	免許を返納したりして、自動車ではかけることができなくなり、 <u>受診や買い物</u> が不自由になることが不安だ	173	29%
4	<u>災害が起きたり、急病</u> になったりしたとき自分や家族の生命が守られるか不安だ	122	21%
5	<u>心配なことはない</u>	74	12%
6	その他（心配なことなどを具体的にご記入ください）	31	5%
	合計	595	100%



回答者 595 人のうち、74 人が心配事はないと回答があり、残り 521 人（88%）の方が心配事があると回答した。高齢者の傾向が高かった影響も考慮されますが、全回答の 29%が移動に関することについて選択しています。

次いで、災害や急病時の対応について選択しており南木曾町特有の地形や、集中豪雨による災害の歴史と、坂下病院の診療所化に伴う急病や救急搬送への不安があることも考えられます。

また、近似値で選択されているのが、食事や入浴に関することが選択されています。

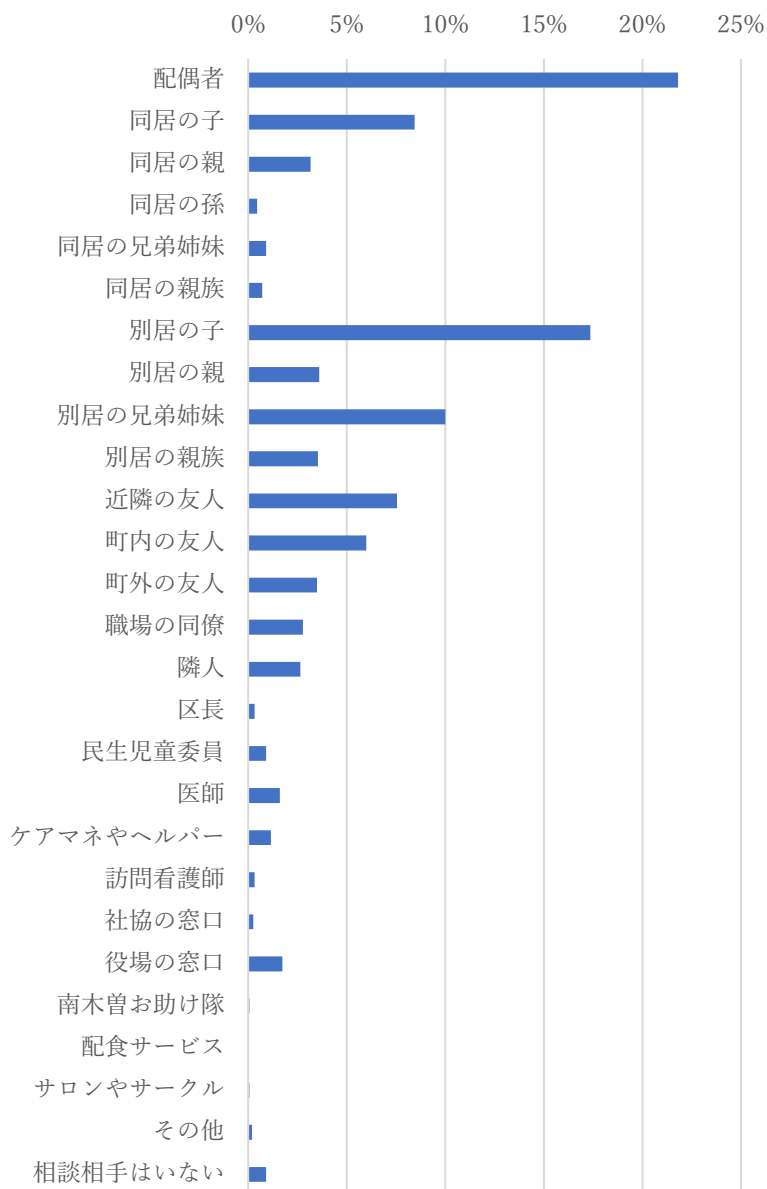
このことは、飲食店や食品販売に関するインフラなどが縮小していることが考えられます。

## 【相談支援関係に関する質問】

### 問2 相談相手について

暮らしの困りごとについて相談できる相手は誰ですか。【3つまで】【回答者数 589人】

設問	回答数	回答割合
配偶者	338	21.8%
同居の子	131	8.5%
同居の親	49	3.2%
同居の孫	7	0.5%
同居の兄弟姉妹	14	0.9%
同居の親族	11	0.7%
別居の子	269	17.4%
別居の親	56	3.6%
別居の兄弟姉妹	155	10.0%
別居の親族	55	3.5%
近隣の友人	117	7.5%
町内の友人	93	6.0%
町外の友人	54	3.5%
職場の同僚	43	2.8%
隣人	41	2.6%
区長	5	0.3%
民生児童委員	14	0.9%
医師	25	1.6%
ケアマネやヘルパー	18	1.2%
訪問看護師	5	0.3%
社協の窓口	4	0.2%
役場の窓口	27	1.7%
南木曾お助け隊	1	0.1%
配食サービス	0	0.0%
サロンやサークル	1	0.1%
その他	3	0.2%
相談相手はいない	14	0.9%
合計	1550	100.0%



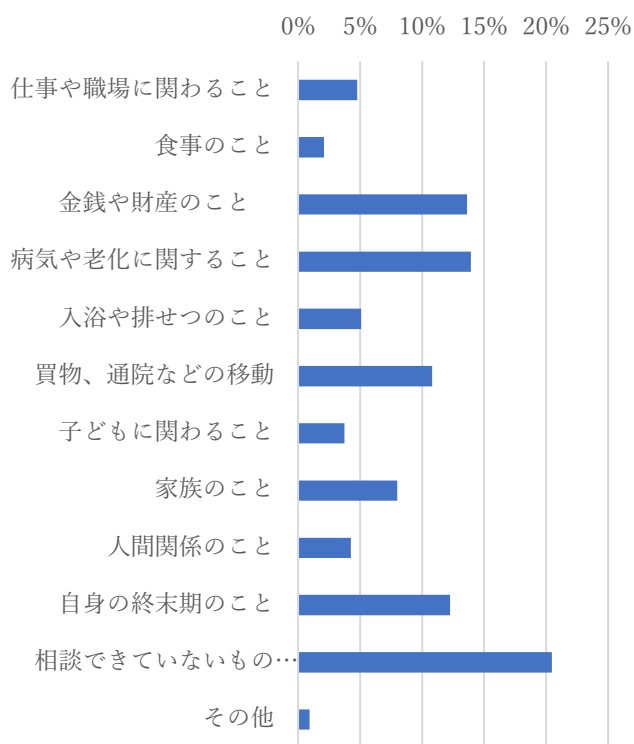
相談先として3つ選択したのは424人で72%、2つ選択は107人で18%、1つ選択は44人で8%となっており、9割の方が複数の相談先があるとしています。

相談相手の多くは配偶者、子ども（同居・別居関係ない）、兄弟など親族が中心だが、友人や同僚など社会的繋がりのある方への相談もできていると考えられます。ただ、全体の2.4%ですが、相談相手がいなかった方もありました。

### 問3 相談出来ないことについて

将来への不安など困っていても相談できないことは具体的にはどのようなことがありますか。 【回答者数 532 人】

設問	回答数	回答割合
仕事や職場に関わること	46	4.8%
食事のこと	20	2.1%
金銭や財産のこと	131	13.6%
病気や老化に関すること	134	13.9%
入浴や排せつのこと	49	5.1%
買物、通院などの移動	104	10.8%
子どもに関わること	36	3.7%
家族のこと	77	8.0%
人間関係のこと	41	4.3%
自身の終末期のこと	118	12.3%
相談できていないものはない	197	20.5%
その他	9	0.9%
合計	962	100.0%



回答者 532 人のうち 197 人、37%の方が相談できていないものはないとしており、3 人に 1 人は何でも相談できる関係にあり、良好な人間関係の中にいる人が多いといえます。

全回答数 962 から相談できないものはない 197 を除く、765 回答のうち、困っていても相談できない事柄 100 超回答があったものは、病気や老化の問題や金銭と財産のこと、終末期のこと、買物や通院などでした。

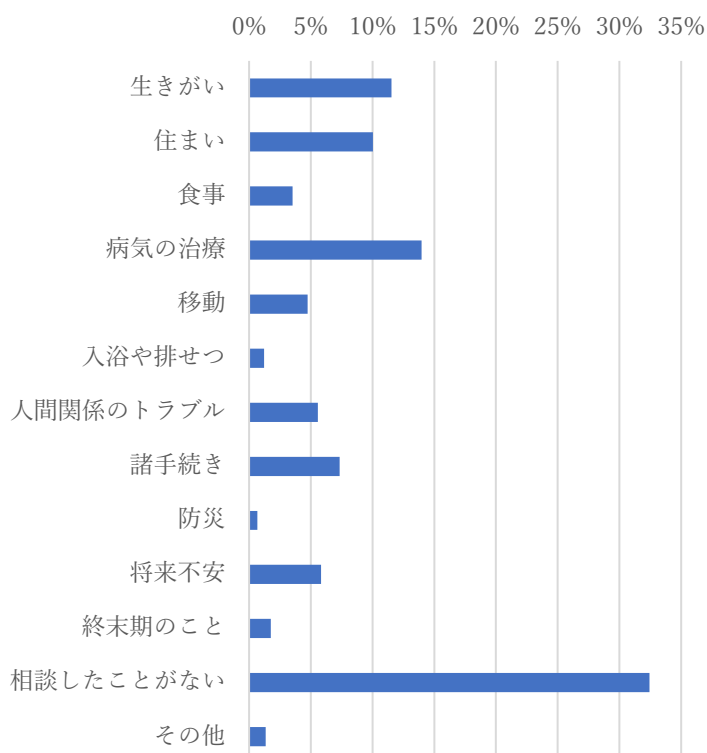
この中で、病気や老化に関することや、終末期に関する事柄など、なかなか自分の努力だけでは解決できない事柄も相談できないことに含まれており、終末期医療について予め家族内で相談しなければいけないという背景が表れているといえます。

#### 問4 相談して、解決できたことについて

あなたがこれまでに相談したことで、解決できたことはどのようなことですか。

【回答者数 517 人】

設問	回答数	回答割合
生きがい	85	11.5%
住まい	74	10.0%
食事	26	3.5%
病気の治療	103	14.0%
移動	35	4.7%
入浴や排せつ	9	1.2%
人間関係のトラブル	41	5.6%
諸手続き	54	7.3%
防災	5	0.7%
将来不安	43	5.8%
終末期のこと	13	1.8%
相談したことがない	239	32.4%
その他	10	1.4%
合計	737	100.0%



相談して、相談ごとが解決できたことがあるか？に対し、54%（278/517）の方が解決した経験があり、残り 46%（239/517）はそもそも相談することがなかったとの回答でした。

解決できたものとして多かったのが、病気の治療に関することが 14%となっていますが、相談できないこととしてもおよそ 14%と比較的高い数値となっており、相談できないが相談すると解決しやすい事柄であるという結果になっています。

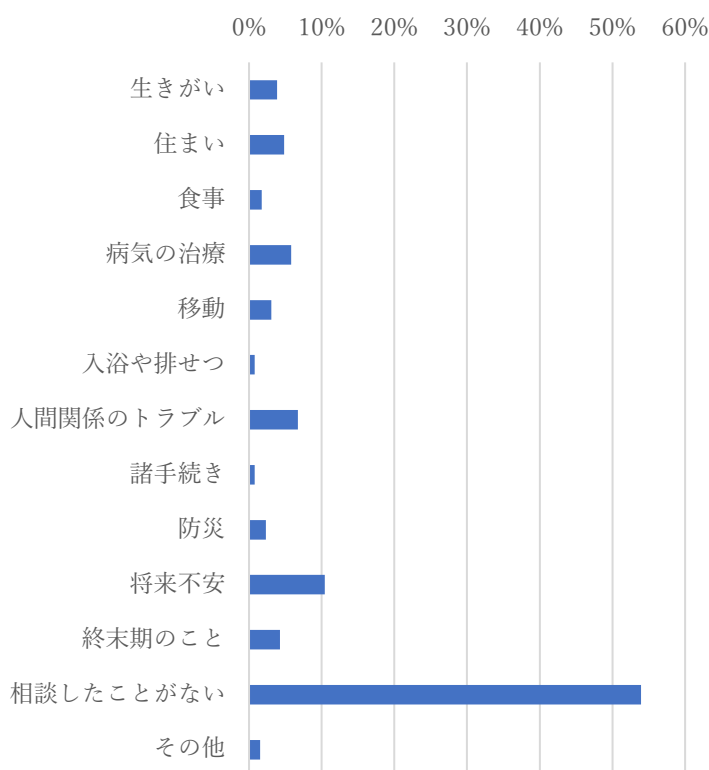
相談相手として多かった親族間での相談により受診の必要性含め、一次的な解決をしている傾向がうかがえます。

問5 相談して解決できなかったことについて

あなたがこれまでに相談して、解決できなかったことで具体的な困りごとはどのようなことですか。

【回答者数 432 人】

設問	回答数	回答割合
生きがい	20	3.9%
住まい	25	4.8%
食事	9	1.7%
病気の治療	30	5.8%
移動	16	3.1%
入浴や排せつ	4	0.8%
人間関係のトラブル	35	6.7%
諸手続き	4	0.8%
防災	12	2.3%
将来不安	54	10.4%
終末期のこと	22	4.2%
相談したことがない	280	53.9%
その他	8	1.5%
合計	519	100.0%



相談して解決できなかったことについては、回答者 432 人のうち、そもそも相談したことがないという回答が 280 人、およそ 65%となっています。

したがって、具体的な困りごととして、解決できていないという選択肢はそれぞれに少なく分散したものになっています。

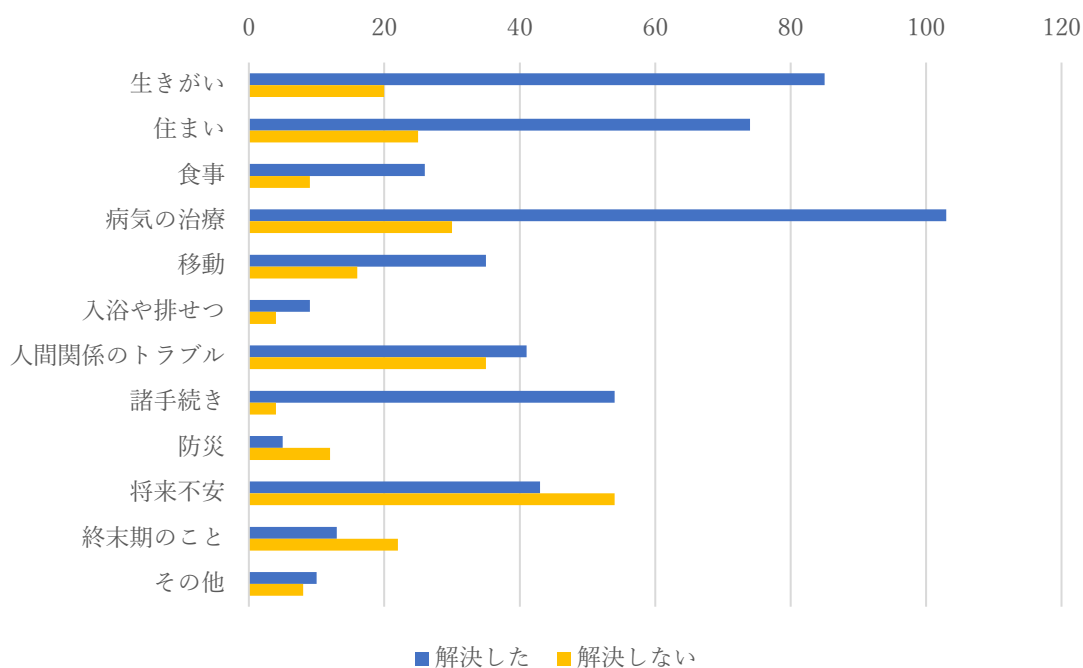
そのなかでも将来不安が 10%を超えており、先行きの見通しが立たず困っている者が 10 人に一人と多くなっています。

不安が高く、相談により解決できたという回答も 14%多かった病気の治療については、約 6%の者が解決できなかったとしています。

今回の調査結果としては、相談により解決できることが多い傾向にあるという結果になりました。

## 問4と問5の比較

設問	解決した	解決しない	差
生きがい	85	20	65
住まい	74	25	49
食事	26	9	17
病気の治療	103	30	73
移動	35	16	19
入浴や排せつ	9	4	5
人間関係のトラブル	41	35	6
諸手続き	54	4	50
防災	5	12	-7
将来不安	43	54	-11
終末期のこと	13	22	-9
相談したことがない	239	280	-41
その他	10	8	2
合計	737	519	218



相談しても解決しにくい問題としては、「防災」「将来不安」「終末期」のことがあげられます。

自助では解決しにくい課題として社会的な支援体制が必要な課題と考えられます。

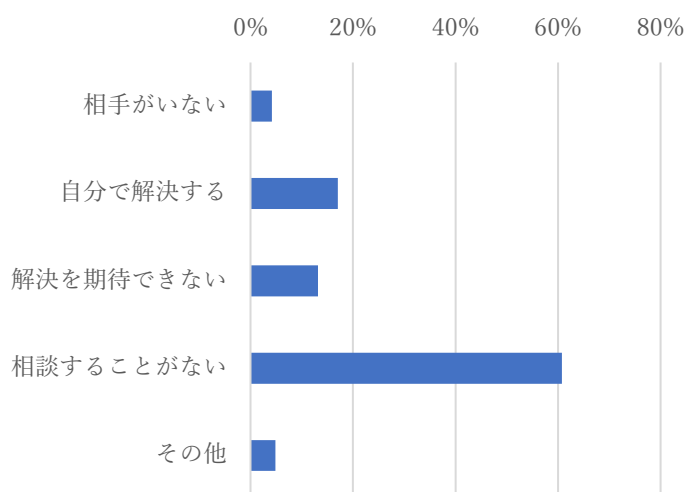


問5-1 問5で「12相談をしたことがない」に回答した方にかがいます。

相談したことがないのはどのような理由からですか。

【択一】 【回答者数 280人】

設問	回答数	回答割合
相手がいない	12	4.3%
自分で解決する	49	17.5%
解決を期待できない	37	13.2%
相談することがない	174	62.1%
その他	8	2.9%
合計	280	100.0%



相談することがないという回答が62%になっており、次いで自分で解決するという回答になっていることから、「相談をしたことがない」という回答の背景には自助意識が高いといえます。

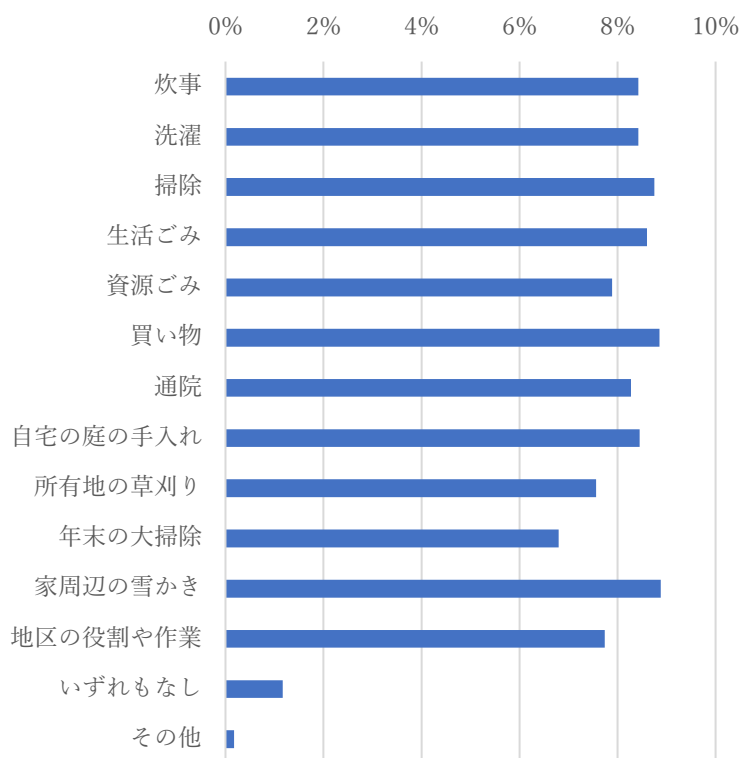
また解決を期待できないと回答した者が13%となっていますが、回答者に高齢者が多いことと、相談しても解決できないことの回答傾向にもみられるように、将来不安をはじめ住まいや病気のことや、終末期のことなど、相談による解決は困難だと判断をした結果が一定数あると考えられます。

## 【地域の助け合い関係についての質問】

問6 自分で何とかしなければならないと思い実施していることは何ですか？

【回答者数 563人】

設問	回答数	回答割合
炊事	332	8.4%
洗濯	332	8.4%
掃除	345	8.8%
生活ごみ	339	8.6%
資源ごみ	311	7.9%
買い物	349	8.9%
通院	326	8.3%
自宅の庭の手入れ	333	8.4%
所有地の草刈り	298	7.6%
年末の大掃除	268	6.8%
家周辺の雪かき	350	8.9%
地区の役割や作業	305	7.7%
いずれもなし	46	1.2%
その他	7	0.2%
合計	3,941	100.0%



全体の9割(563/595)の方が、自分の身の周りの仕事は家事、買い物、通院、家の周りの仕事など自分で何とかしなければいけないと考えています。

自分で行わなければならないことについて、3,900件あまりの回答となりました。これは回答者563人で除すると平均で7つの項目を選択したことになります。

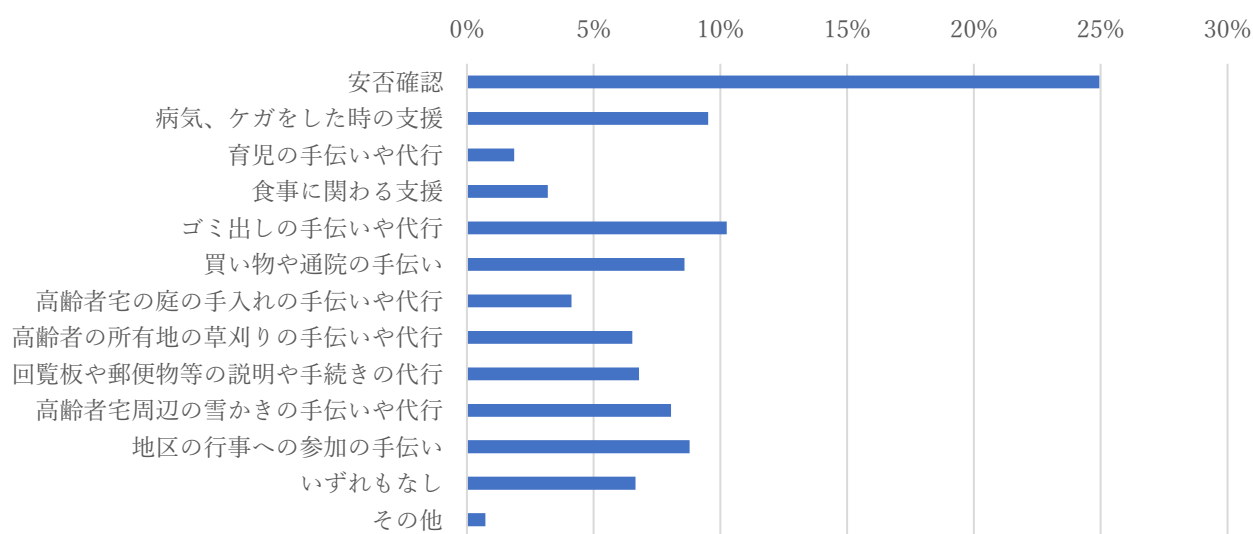
また、いずれもなしとした回答が1%強となりましたが、85歳以上の回答者が12%もあることから、性別・年代に関係なくすべての人が、様々な事柄について自分でやらなければならないと考えていることがうかがえます。

さらに、この結果は、全体としても回答者の6割が高齢者であったことを考えると、自立意識が高い傾向があることを示す結果といえます。

## 問7 近隣での助け合いについて

地域や近隣に独り暮らし高齢者や高齢者世帯等が居た場合、あなたが「手伝えることができる」と思うことを選んでください。 【回答者数 559人】

設問	回答数	回答割合
安否確認	375	25.0%
病気、ケガをした時の支援	143	9.5%
育児の手伝いや代行	28	1.9%
食事に関わる支援	48	3.2%
ゴミ出しの手伝いや代行	154	10.2%
買い物や通院の手伝い	129	8.6%
高齢者宅の庭の手入れの手伝いや代行	62	4.1%
高齢者の所有地の草刈りの手伝いや代行	98	6.5%
回覧板や郵便物等の説明や手続きの代行	102	6.8%
高齢者宅周辺の雪かきの手伝いや代行	121	8.1%
地区の行事への参加の手伝い	132	8.8%
いずれもなし	100	6.7%
その他	11	0.7%
合計	1,503	100.0%



手伝えることができることについて、いずれもなしを除いた回答が1,400件余り選択されており、回答者一人当たりでは、2.5個を選択したことになります。

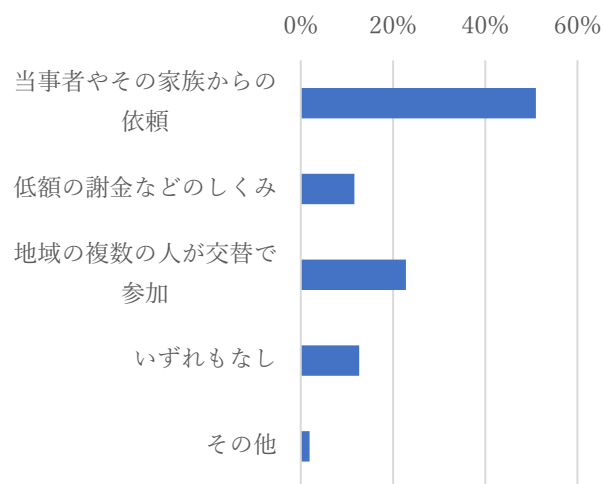
なかでも安否確認には25%の回答が手伝えると選択しており、ゴミ出しや、病気やけがをした時の支援など、第三者が行うには抵抗感がありそうなことにも10人に一人の割合で選択しており、買物や通院の支援や雪かきなど、相応の時間と労力を要する物事にも8%前後が選択されていることは、近隣の助け合いの意識が高い結果が表れているといえます。一方、手伝えることはないと回答した方も559人中100人(18%)いました。

問8 助け合いのきっかけについて

あなたは、どのようなきっかけがあればお手伝いできると思いますか。

【回答者数 541人】

設問	回答数	回答割合
当事者やその家族からの依頼	373	51.0%
低額の謝金などのしくみ	85	11.6%
地域の複数の人が交替で参加	167	22.8%
いずれもなし	93	12.7%
その他	14	1.9%
合計	732	100.0%



近所の独居高齢者や、高齢者世帯に対して、何かしらのお手伝いができると回答した方が8割超（448/541）います。ただ行動を起こすには、本人や家族からの依頼があればお手伝いしやすいと思っています。

回答者541人が732件を選択しています。その結果、一人当たり1.3個を選択したことになるので、選択肢にあるようなきっかけがあればお手伝いができる可能性が高いという結果になっています。

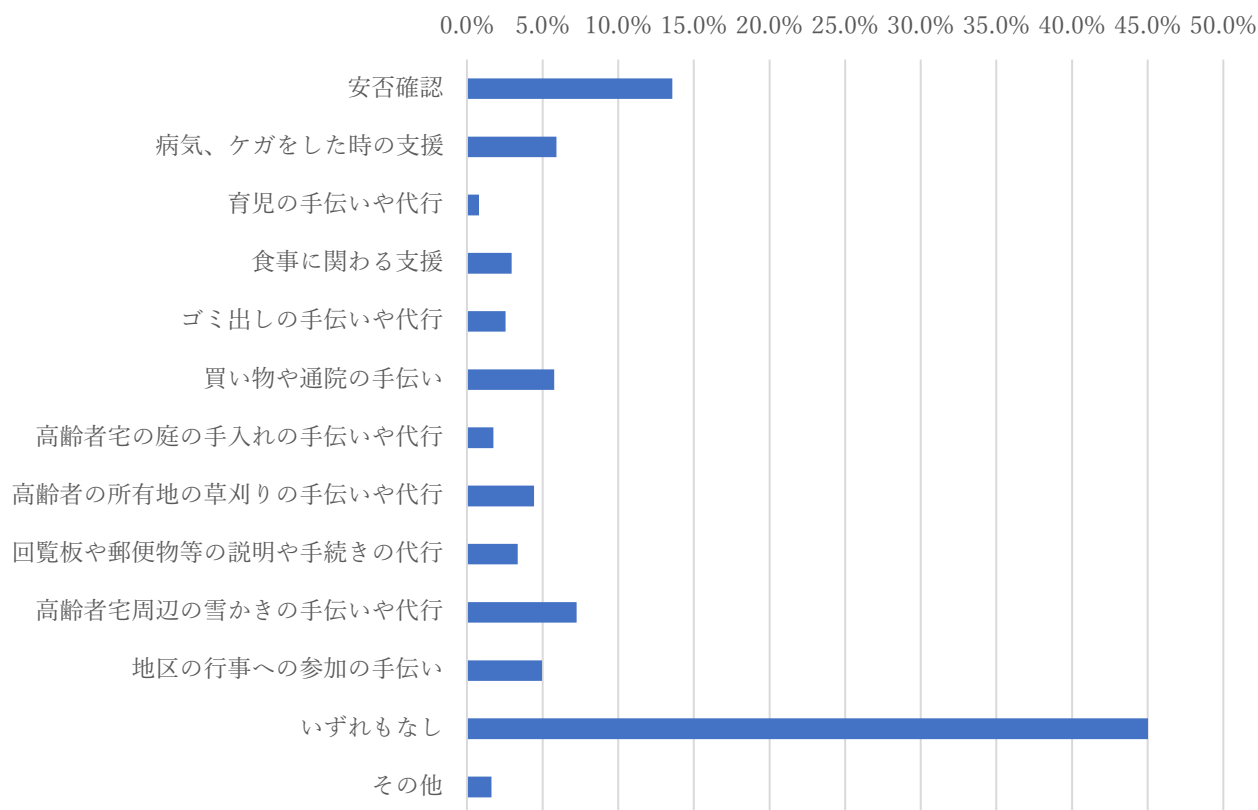
一方、きっかけがあってもお手伝いすることができないと回答する人も93人、17%（93/541）いました。

問9 お節介について

お節介かもしれないと思いつつ、やむを得ず行ったことは何ですか。

【回答者数 544人】

設問	回答数	回答割合
安否確認	101	13.6%
病気、ケガをした時の支援	44	5.9%
育児の手伝いや代行	6	0.8%
食事に関わる支援	22	3.0%
ゴミ出しの手伝いや代行	19	2.6%
買い物や通院の手伝い	43	5.8%
高齢者宅の庭の手入れの手伝いや代行	13	1.7%
高齢者の所有地の草刈りの手伝いや代行	33	4.4%
回覧板や郵便物等の説明や手続きの代行	25	3.4%
高齢者宅周辺の雪かきの手伝いや代行	54	7.3%
地区の行事への参加の手伝い	37	5.0%
いずれもなし	335	45.0%
その他	12	1.6%
合計	744	100.0%



回答者 544 人のうち、「お節介と思いつつ、やむを得ず行ったことはない」を選択した方が、335 人と全体回答者の約 6 割となりました。逆に 4 割の方はお節介と思いながら安否確認や雪かき、病気やケガの支援をした経験があるようです。

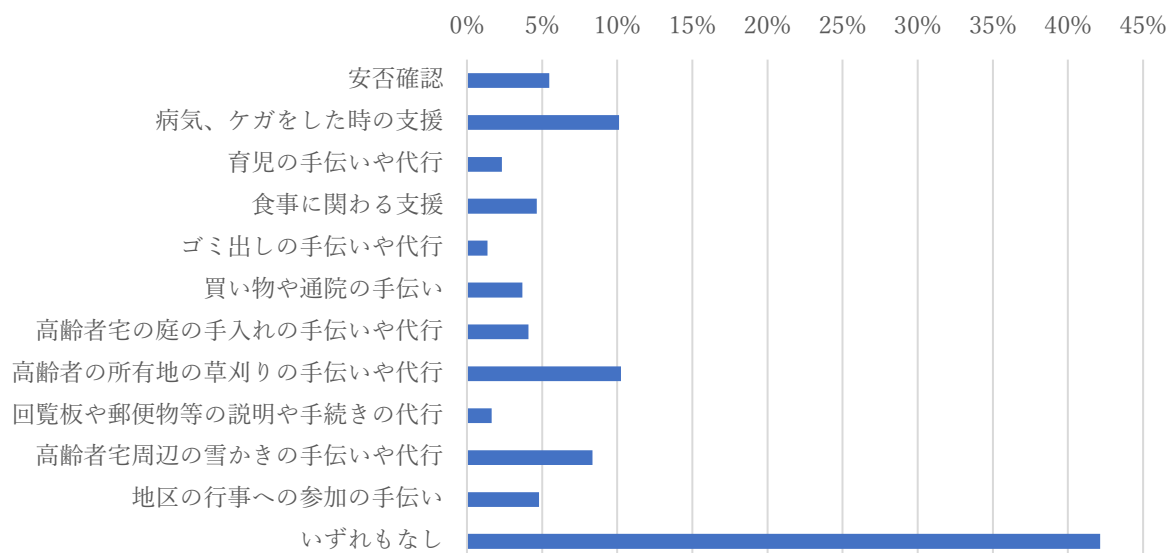
実際に行ったことで多かったのが安否確認で全回答の 14%位となっています。他の項目は少数の選択となっており、「高齢者宅周辺の雪かきの手伝いや代行」「病気、ケガをした時の支援」や「買い物や通院の手伝い」と続きます。

雪かきなどは、自宅のついでに近隣の高齢者宅前を断りなく行ったような場合が考えられますが、病気やケガや買い物通院などはそれなりの合意があった場合の手伝いとなりますので、「了解されたが、お節介だったかな。」と思う場合があることを示した結果が想定されます。

問 10 助けてもらった経験について

近所の人たちから助けてもらったことはありますか。【回答者数 546 人】

設問	回答数	回答割合
安否確認	40	5.5%
病気、ケガをした時の支援	74	10.1%
育児の手伝いや代行	17	2.3%
食事に関わる支援	34	4.7%
ゴミ出しの手伝いや代行	10	1.4%
買い物や通院の手伝い	27	3.7%
高齢者宅の庭の手入れの手伝いや代行	30	4.1%
高齢者の所有地の草刈りの手伝いや代行	75	10.3%
回覧板や郵便物等の説明や手続きの代行	12	1.6%
高齢者宅周辺の雪かきの手伝いや代行	61	8.3%
地区の行事への参加の手伝い	35	4.8%
いずれもなし	308	42.1%
その他	8	1.1%
合計	731	100.0%



例示した事柄については、助けてもらった経験は回答者 546 人に対し 308 人 約 56% が「いづれもない」と回答しており、44%の方が何らかの援助を受けたことがあることとなります。

助けてもらった経験として多いのが、「病気、ケガをした時の支援」と「高齢者の所有地の草刈りの手伝いや代行」が全回答の 10%ほどとなっています。

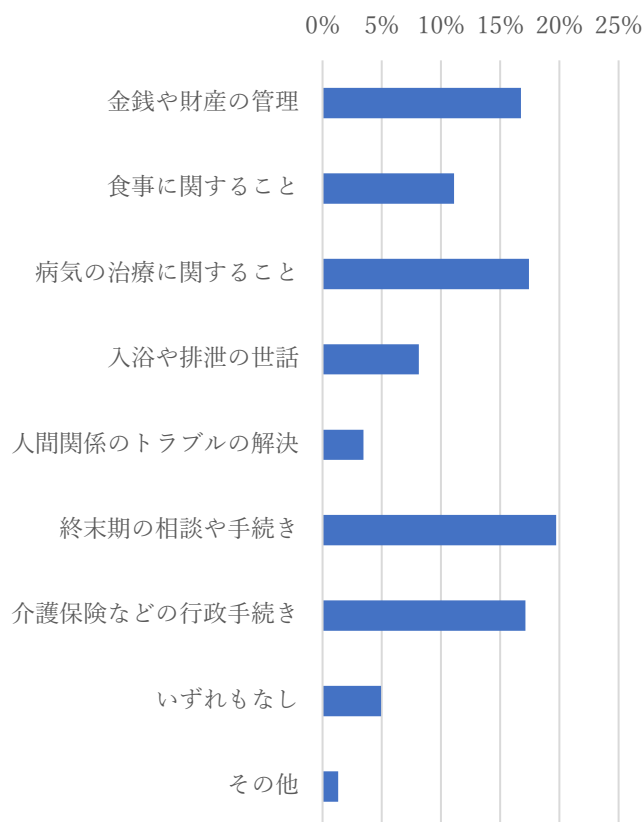
## 【家族関係に関する質問】

### 問 11 子どもの役割について

親の具体的な困りごとに対して子どもが対応すべきだと思うことは何ですか。

【回答者数 549 人】

設問	回答数	回答割合
金銭や財産の管理	282	16.8%
食事に関すること	187	11.1%
病気の治療に関すること	293	17.4%
入浴や排泄の世話	137	8.1%
人間関係のトラブルの解決	58	3.4%
終末期の相談や手続き	332	19.7%
介護保険などの行政手続き	288	17.1%
いずれもなし	83	4.9%
その他	22	1.3%
合計	1,682	100.0%



回答者は 549 人で、子どもが対応すべきことがないとした方はそのうち 83 人で、回答者全体の 15%となりました。裏返しに、85%は、すべてを子供が対応しなくても良いと考えていることが判ります。

こどもが対応すべき項目では、いずれもなしを除き 1,600 件余りを選択しています。回答者一人当たり 3 つほど選択しており、多い順では「終末期のこと」「病気の治療に関すること」「金銭や財産の管理」「行政手続き」と続きますが、どれも 17%から 20%程度で近似値の回答となっています。

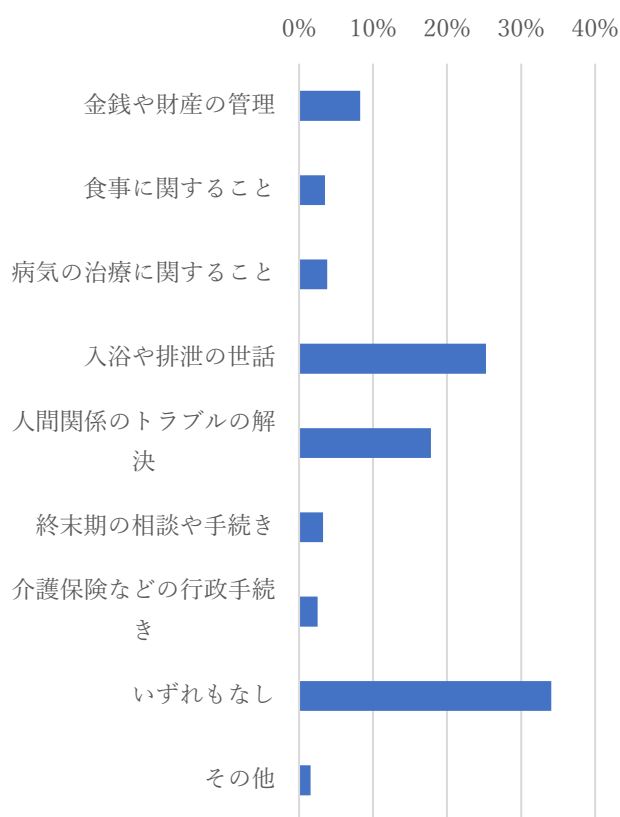
親の困りごとに対して、食事については、11%が子の役割としていますが、入浴や排泄といった介護については、8%となっており、介護の社会化の意識が浸透している様子が伺えます。



## 問 12 家族の役割について

家族であってもやりたくなかったり、させたくなかったりする等、直接関りを持ちたくないことは何ですか。【回答者数 528 人】

設問	回答数	回答割合
金銭や財産の管理	59	8.3%
食事に関すること	25	3.5%
病気の治療に関すること	27	3.8%
入浴や排泄の世話	180	25.2%
人間関係のトラブルの解決	127	17.8%
終末期の相談や手続き	23	3.2%
介護保険などの行政手続き	18	2.5%
いずれもなし	243	34.1%
その他	11	1.5%
合計	713	100.0%



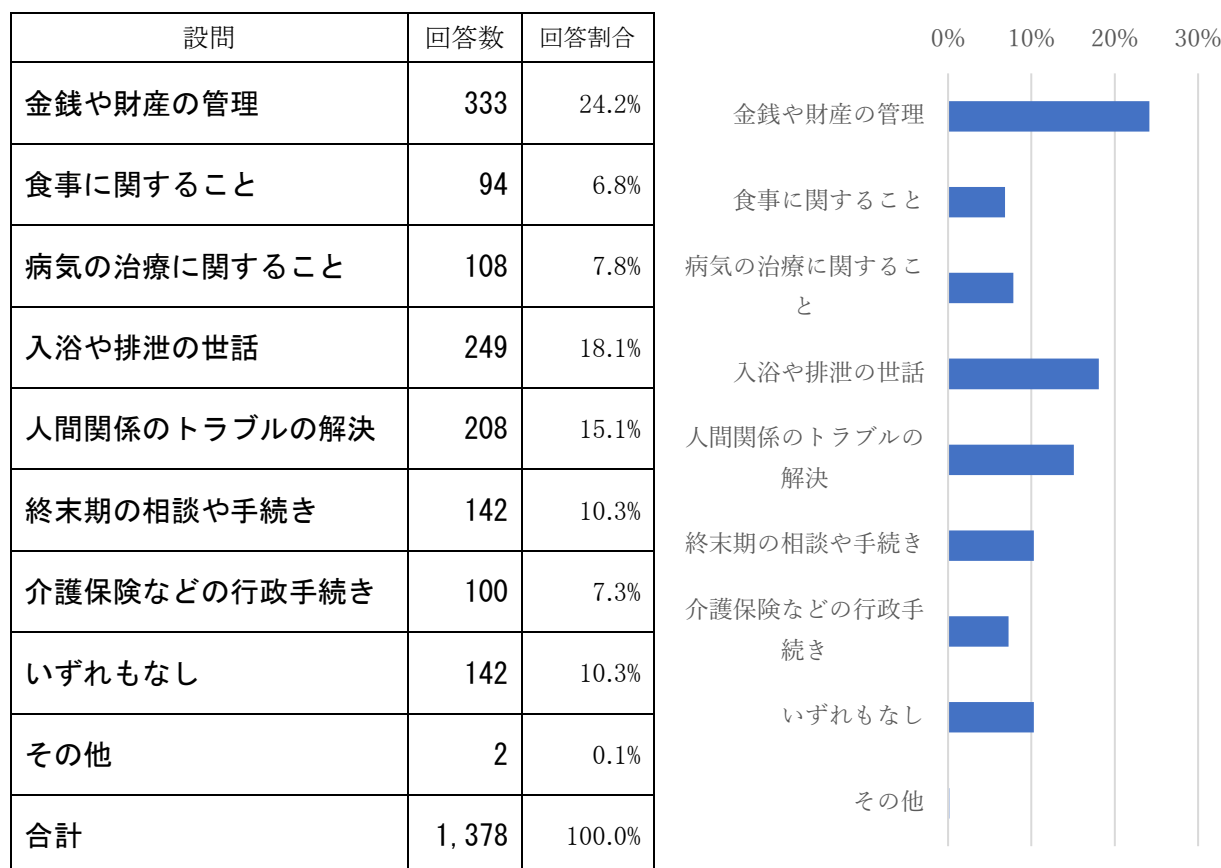
家族であっても直接関わりを持ちたくないことがあると回答した方は、回答者数からいずれもなしを除いた 285 人で全体の 54%で 2 人に一人の割合になっています。およそ半数の方が家族であっても関りを持ちたくない事があるとしています。その項目は一人当たり 1.6 個を選択しています。

家族であっても、したくない、やらせたくないことは対し、入浴や排泄の世話、人間関係のトラブル、金銭・財産管理となりました。

「入浴や排泄の世話」については、25%程度が家族の役割としては受け入れていない結果となっていますが、逆に 75%は家族の役割として受け入れていることとなります。

### 問 13 親戚の役割について

近所にいる親戚であってもやりたくなかったり、させたくなかったりする等、直接関わりを持ちたくないことは何ですか。【回答者数 538 人】



親戚であっても直接関わりを持ちたくないことがあると回答した方は、回答者数からいずれもなしを除いた 396 人で全体の 74% になっています。およそ 4 人に 3 人の方が親戚であっても関わりを持ちたくない事があるとしています。その選択項目も一人当たり 3.1 個と家族にさせたくないより、倍の項目数が選択されています。

回答は、金銭・財産管理が一番多く、続いて入浴や排泄の世話、人間関係のトラブル、終末期の手続きなどとなりました。

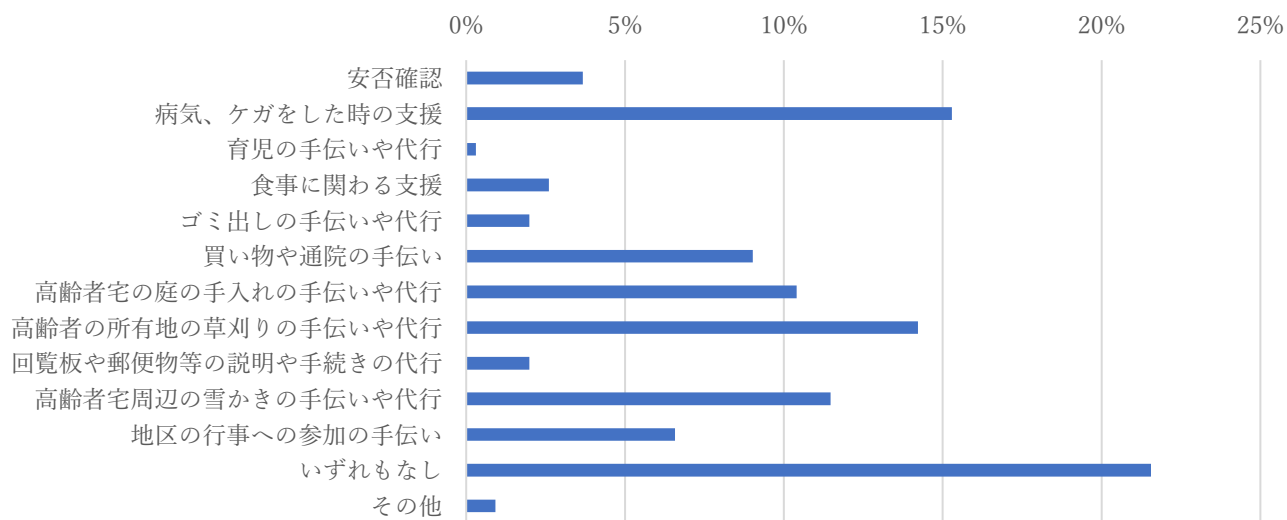
特徴的なのは、金銭や財産の管理で 24% と、回答者 4 人に 1 人が受け入れない役割となっています。これは、独居や高齢者世帯になって金銭管理や財産管理の支援が必要になった場合に、親戚関係では抵抗感が強くなるということを示唆する結果となります。

【問 14 は 65 歳以上の方のみお答えください。】 該当者 360 人

問 14 困っていることについて

現在の暮らしの中で困っていることや、困りそうなことは何ですか。【回答者数 309 人】

設問	回答数	回答割合
安否確認	24	3.7%
病気、ケガをした時の支援	100	15.3%
育児の手伝いや代行	2	0.3%
食事に関わる支援	17	2.6%
ゴミ出しの手伝いや代行	13	2.0%
買い物や通院の手伝い	59	9.0%
高齢者宅の庭の手入れの手伝いや代行	68	10.4%
高齢者の所有地の草刈りの手伝いや代行	93	14.2%
回覧板や郵便物等の説明や手続きの代行	13	2.0%
高齢者宅周辺の雪かきの手伝いや代行	75	11.5%
地区の行事への参加の手伝い	43	6.6%
いずれもなし	141	21.6%
その他	6	0.9%
合計	654	100.0%

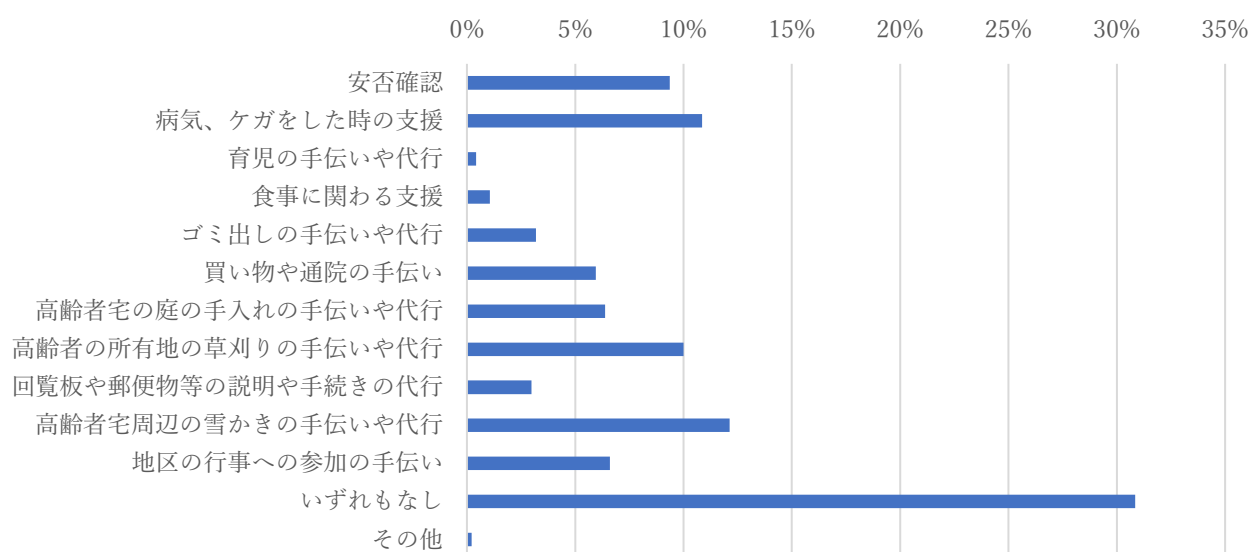


対象者 360 人のうち回答数は 309 人で、いずれもなし 141 人を除く 168 人、54% (168/309) が困りごとがあると回答しています。回答数 513 (654-141) を回答者 (309 人) で除すと、およそ一人当たり 1.7 件を選択したことになります。

「いずれもなし」が 141 人で回答者の 46% となっており、あまり困り感はない傾向にあります。選択が多かった項目では、病気やケガをした時の対応や、草刈り、雪かきと加齢に伴う体力的な問題を困りごととして選択しています。

問 14-1 問 14 で回答した「困っていること」のうち、近所の人に助けてほしいと思うことは何ですか。【回答者数 266 人】

設問	回答数	回答割合
安否確認	44	9.4%
病気、ケガをした時の支援	51	10.9%
育児の手伝いや代行	2	0.4%
食事に関わる支援	5	1.1%
ゴミ出しの手伝いや代行	15	3.2%
買い物や通院の手伝い	28	6.0%
高齢者宅の庭の手入れの手伝いや代行	30	6.4%
高齢者の所有地の草刈りの手伝いや代行	47	10.0%
回覧板や郵便物等の説明や手続きの代行	14	3.0%
高齢者宅周辺の雪かきの手伝いや代行	57	12.1%
地区の行事への参加の手伝い	31	6.6%
いずれもなし	145	30.9%
その他	1	0.2%
合計	470	100.0%



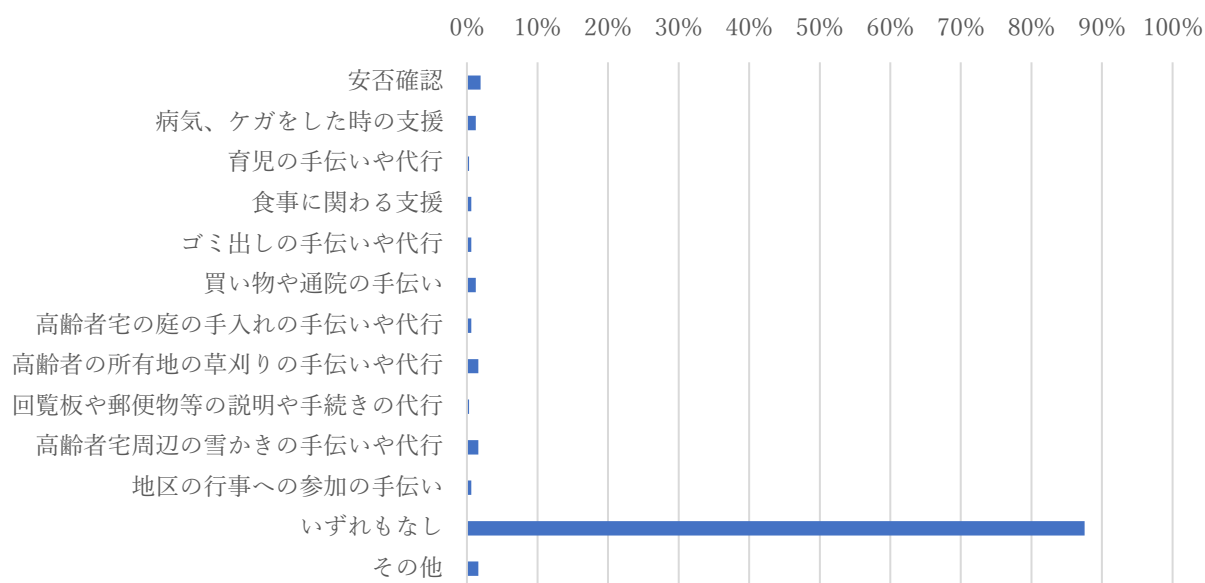
回答者 266 人のうち「いづれもなし」を 145 人が選択していますので、対象者の 45%にあたる 121 人が近所の人に助けてほしいと選択した内容の集計になります。

選択項目数は一人平均 2.7 個を選択したことになります。近所の人に助けてほしいと思うことでは、雪かきや草刈り、病気やけがをした時の支援などは 10%を超えて助けて欲しい項目に選択されており、その他にも多くが選択されていることから、困り始めると様々な問題を抱えることがうかがわれます。

問 14-2 望んでいないのに世話をやかれたりしてお節介だと思ったことがありますか。

【回答者数 290 人】

設問	回答数	回答割合
安否確認	6	1.9%
病気、ケガをした時の支援	4	1.3%
育児の手伝いや代行	1	0.3%
食事に関わる支援	2	0.6%
ゴミ出しの手伝いや代行	2	0.6%
買い物や通院の手伝い	4	1.3%
高齢者宅の庭の手入れの手伝いや代行	2	0.6%
高齢者の所有地の草刈りの手伝いや代行	5	1.6%
回覧板や郵便物等の説明や手続きの代行	1	0.3%
高齢者宅周辺の雪かきの手伝いや代行	5	1.6%
地区の行事への参加の手伝い	2	0.6%
いずれもなし	274	87.5%
その他	5	1.6%
合計	313	100.0%



回答者 290 人のうち 273 人、94%がお節介だと思ったことはないと回答しており、極めて支援を受けるにあたっての受け止め方は肯定的な結果になっているといえます。草刈りや雪かきなど、本人の困り感があることについて、自分の作業のついでに行う支援には、お節介と感じないと考えられます。

少数ですが、その支援について必要性について本人の困り感がない場合には、お節介と感じるものとおもわれます。

## 【単純集計から見えてきたこと】

◎今回の意識調査において、

問 1. 心配・不安なこと、相談したいこと

択一式選択をいただいた中で「免許を返納したりして、自動車ですでにかけることができなくなり、受診や買い物が不自由になることが不安だ」と全体の3割、173人の方が一番多く回答しています。

問 2. 相談相手について、

相談先として3つ選択したのは424人で72%、2つ選択は107人で18%、1つ選択は44人で8%となっており、9割の方が複数の相談先があるとしています。

相談者は、配偶者及び同居している家族が相談相手となっている回答が最も多く全体の35%を超え、別居している家族も含めると70%が身内を相談相手としています。身内以外では、友人や職場の同僚が次に多く、公的機関や社協などの相談窓口に頼るのでなく、まずは身内、親族、友人など自らの関係の中で相談し解決していく気持ちが強いことが判りました。

問 6. 自分で何とかしなければならないと思い実践していること

各項目がまんべんなく選択されています。回答者の6割が高齢者であることから、「家周辺の雪かき」や「草刈り」など一般の調査では高齢者は依存傾向が高まる項目についても自分で何とかしなければならないと考えて実践しているという結果が出ています。高齢者についても自立心が非常に高く、自分でやらなければならないと思い実践していることが判ります。

問 7～問 10 の近隣との助け合い

回答者の8割の方が何かしらお手伝いをする事ができると回答している。また、「本人や家族などから依頼があればお手伝いしやすい」と回答している方は7割超いるのに対し、きっかけがあってもお手伝い出来ないとした方も1割超いました。

問 11～問 13 子ども・家族・親戚の役割について

介護サービス利用の意識が浸透し、親の困りごとに対し、すべてを子供が対応しなくても良いと考えられていることが判りました。

また、家族であってもやりたくない、させたくないこととして、「入浴や排泄の世話」、「人間関係のトラブルの解決」が1番2番に多いのに対し、親戚の場合では、「金銭や財産の管理」が1番多く、回答者4人に1人が受け入れないと選択しています。

問 14 65歳以上の方(360人)を対象とした困っていることについて

選択が多かった項目では、病気やケガをした時の対応や、草刈り、雪かきと加齢に伴う体力的な問題を困りごととして多くを選択していることが判りました。

また、回答者290人のうち94%が支援を受けたことに対し、お節介だと思ったことはな

いと回答しており、支援の受け止め方は肯定的な結果になっているといえます。

問 15. 普段、生活するなかで不安や不便、不都合など感じていること  
記述式回答のため、ここでは考察していませんが、全体 595 人中 4 割の 244 人から回答をいただきました。

そのうち「移動手段への不安」が一番多く、1/4 にあたる 63 人から記述がありました。次に、草刈りや雪かきも含めた所有地の管理、地区・近隣との関係、生きがいや・自分の役割等と続き、家族や独居に関する記述がされていました。

この結果から、

○高齢者の困りごと 病気・けがの支援、所有地の草刈り、雪かきについては、近所の方に助けてもらいたいと考えている。一方、支援する側は、依頼の意思表示があれば支援しやすいと考えており、双方の意思疎通が図れば円滑な助け合いが可能となる。

また、支援してもらったことに対し、90%以上の方は世話を焼かれてもお節介と感じていないことから、自分の仕事のついでに行う行為なら受け入れられやすいと考えられます。

○多くの質問項目において、年齢や性別を問わず現在は移動手段をもっているが、年齢を重ねるにつれ自分の意思で自由に移動できなくなる「移動不安」が 1 番の課題であることが判りました。

「買い物」や「医療・通院」などの課題も相互に関係し、多くの困りごとに共通する課題であることが判りました。